

# 谷中の地と図



0、仮定 パブリックとプライベートとの間にセミパブリックな空間が存在



1、道の際に塀がパブリックとプライベートの境界として存在



2、道沿いに建物の壁面が直接面する



3、植え込みや駐車場などで道からセットバックして建物が配置

不忍通りから一步入ると住宅地と仏閣、商店街の三者が混ざり合った街並みとなっており、住宅地は昔からある路地裏に古い木造の建物から少し新しい建物、新しくできた私道と新築住居、暗渠であるへび道とそこに沿ってできた建物と路地。新旧の道と建物でこの土地は構成されていた。



白い部分：Public  
黒い部分：Private  
— : 塀

1/800 谷中の地図

## 結論

- ・ 1のパターンは古い建物に多い。
- ・ 2のパターンは基本的に古い建物には少なくアパートや新築住宅に多く見られた。
- ・ 3のパターンは、車を持ちある程度の幅ある道に面した住居で古い建物に少ない。

もともと道の狭い路地ではそもそも家の前に駐車場がある家は少なく、その分大きい駐車場がいくつか見受けられた

→西洋の町並みのように建物間の隙間に中間領域を作るのではなく

昔の日本人はプライベート空間に庭を設けるためパブリックとの境に塀を作っていた。

それが現代では少しずつ自分の土地に庭より生活空間を優先する傾向が高まってきたのではないかと考えた。